



[HOME](#) [仏教](#) [仏像](#) [名所旧跡](#) [スナップ](#) [グロマコン](#) [経営コンサルタント](#)

【カシャリ！ ひとり旅】

東京北区石神井川沿いのウォーキング 3

音無親水公園と石神井川 名主の滝公園

JTBパブリッシング社の「東京自然を楽しむウォーキング」を参照して、2021年3月に、北区のJR王子駅から、板橋区の都営三田線・板橋区役所前駅までの約6kmを、桜をモチーフに楽しみました。

東京都北区

<http://www.city.kita.tokyo.jp/>

区のサイトによりますと北区は、下記のように紹介されています。

北区は、江戸時代から飛鳥山の桜、石神井川||の滝や紅葉といった四季の変化を楽しむことができる行楽地として知られていました。現在も、これらの自然をはじめ、荒川や石神井川などの4つの河川に恵まれた緑あふれるうるおいのまちです。

JRや地下鉄、都電などが区内を走り、商店街がにぎわう便利で活気のあるまちでもあります。

令和6年には、近代日本経済の礎を築いた渋沢栄一が新一万円札の顔として登場。渋沢は、61歳から亡くなる91歳までの30年間、飛鳥山の一角を本邸として過ごし、その邸宅の一部も残り、また渋沢資料館として一般公開もされています。

北区基本構想では、将来像として、「ともに作り未来につなぐときめきのまち ～ 人と水とみどりの美しいふるさと北区」を掲げ、その実現に向けて努力しています。



面積	20.61km ²
総人口	353,431人（推計人口、2021年2月1日）
人口密度	17,149人/km ²
区の木	サクラ（1972年12月25日制定）
区の花	ツツジ（1972年12月25日制定）

■ 東京都北区王子

王子（おうじ）は、東京都北区のほぼ中央部に位置し、東北新幹線、京浜東北線などが南北に貫通し、それに並行するように国道122号（北本通り）が走っています。その通り沿いには、王子随一の繁華街があります。

昭和40年代までは、渋沢栄一で知られる旧王子製紙（過度経済力集中排除法による会社分割前の王子製紙であり現在の同名企業とは異なる）の工場や社宅が多く立ち並んでいました。

徳川8代将軍吉宗の時代から桜の名所として知られる王子ですが、日本で最初に制定された公園として知られる飛鳥山公園があります。見落とされがちなのが、桜並木の美しい石神井川を遡り旧中山道の板橋宿まで続く遊歩道です。

■ 名主の滝公園

<https://www.city.kita.tokyo.jp/d-douro/bunka/koenichiran/nanushinotaki.html>

JR王子駅北口の改札を左手に出て、線路沿いの道を北方向（埼玉県大宮方面）に進んでゆきます。枝道もありますが、ほぼ北方向に直進しますと、左手に、いなり幼稚園があります。その後方に王子稲荷神社の杜が広がっています。

稲荷神社を参拝した後、さらに北に向かって300mほどゆきますと名主の滝公園の入口の門にたどり着きます。

地図： JTBパブリッシング社「東京・自然を楽しむウォーキング」



◇ 名主の滝公園概要

江戸時代の安政年間（1854～1860）に王子村の名主「畑野孫八」が自邸に開いたのが始まりで、“名主の滝”の名前の由来もここから来ました。

庭園として整備されたのは、明治の中頃で、垣内徳三郎という人の所有になってからでした。昭和13年には、株式会社精養軒が買収し、食堂やプールなどが作られ公開され続けてきましたが、昭和20年4月の空襲により焼失し、ようやく東京都によって再公開されるようになったのは昭和35年11月でした。

武蔵野台地の突端である王子近辺には滝が多く、かつて「王子七滝」と呼ばれる7つの滝がありました。この

うち「名主の滝」だけが現存する唯一の滝となっています。

「名主の滝」は、都内でも有数の8メートルの落差を有する男滝（おだき）を中心とする女滝（めだき）・独鈷の滝（どっここのたき）・湧玉の滝（ゆうぎょくのたき）の4つの滝からなります。しかし、現在は、雄滝のみが水を落としています。

名主の滝公園は、これらの滝とケヤキ・エノキ・シイ、そして100本余りのヤマモミジが植えられた斜面を巧みに利用して自然の風景を取り入れた回遊式庭園です。

利用時間 午前9時から午後5時まで 入園は閉園の30分前まで

7月15日から9月15日は午前9時から午後6時まで

休園日 12月29日から1月4日まで

滝・流れ清掃日 第2・4月曜（5月から10月） 第4月曜（11月から4月）

アクセス

114-0021 東京都北区岸町1-15-25 03-3908-9275

JR王寺駅より、線路西側を北上して、徒歩10分

北区サイトを参考にして作成

◇ 名主の滝公園の池



王子稻荷神社や金輪寺から数分歩きますと左手に寺院の門のようなものが見えてきました。名主の滝公園の薬医門です。

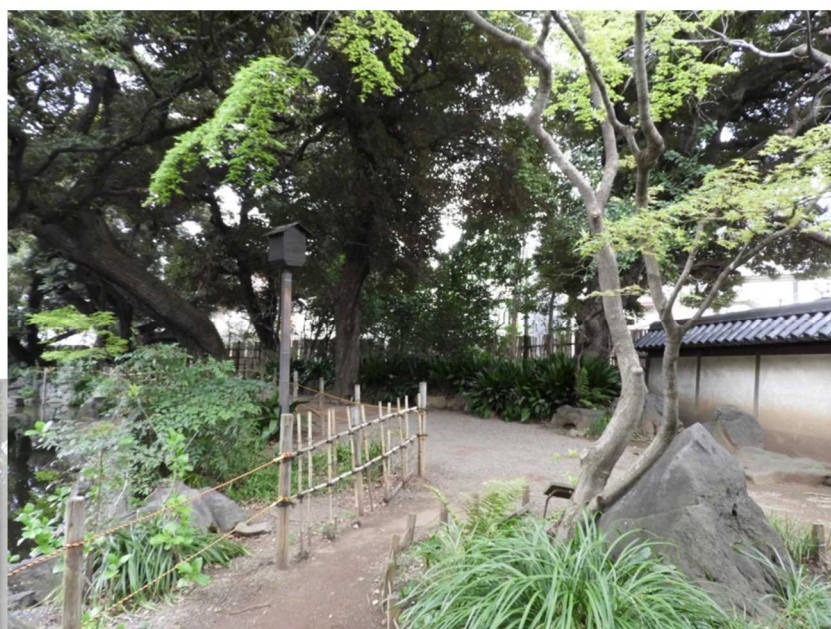


薬医門の扁額を見て、お寺ではないことがわかりました。



薬医門を入ると右手に、奥に続く小径があります。

そのすぐ左は池です。

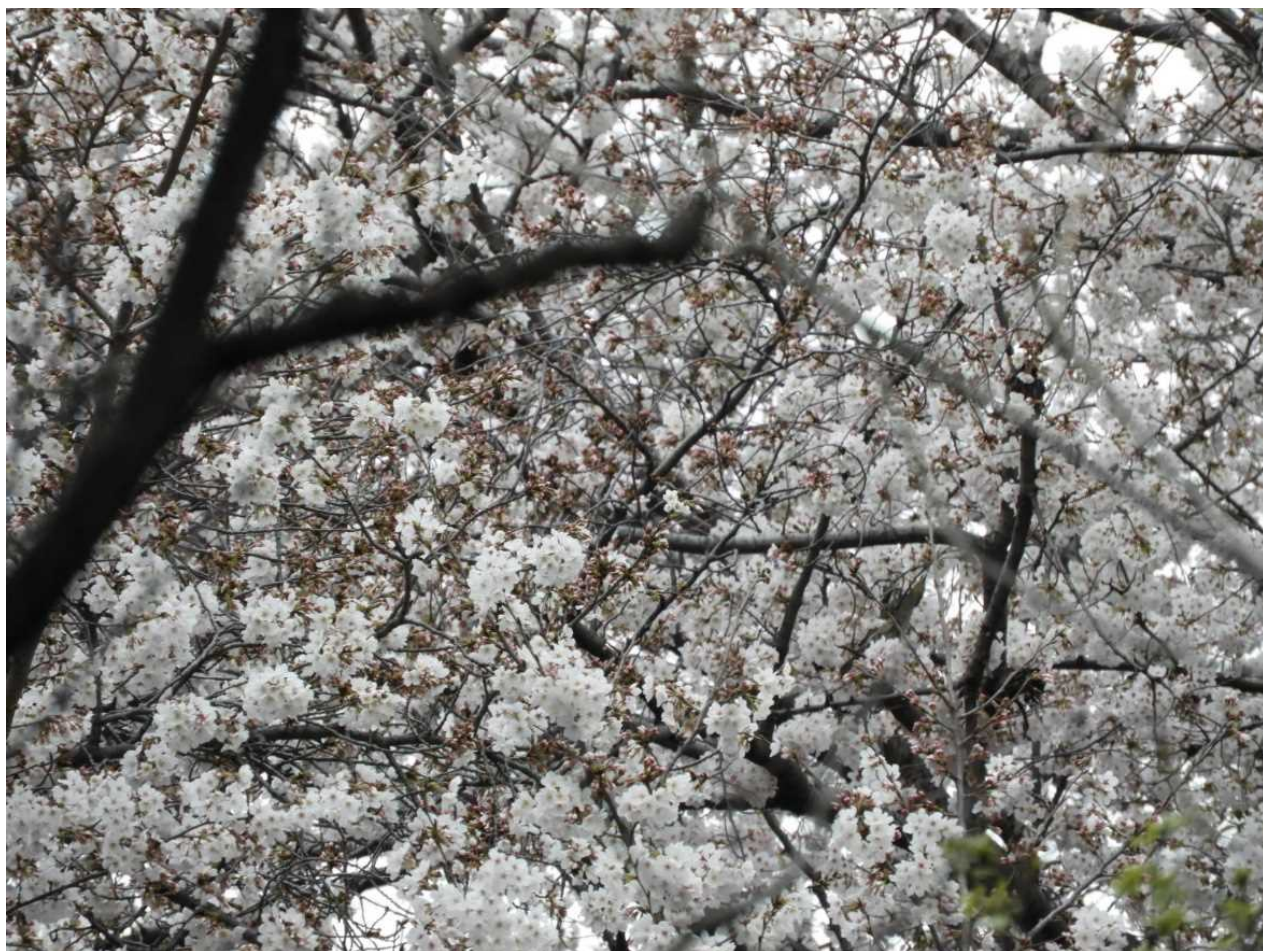
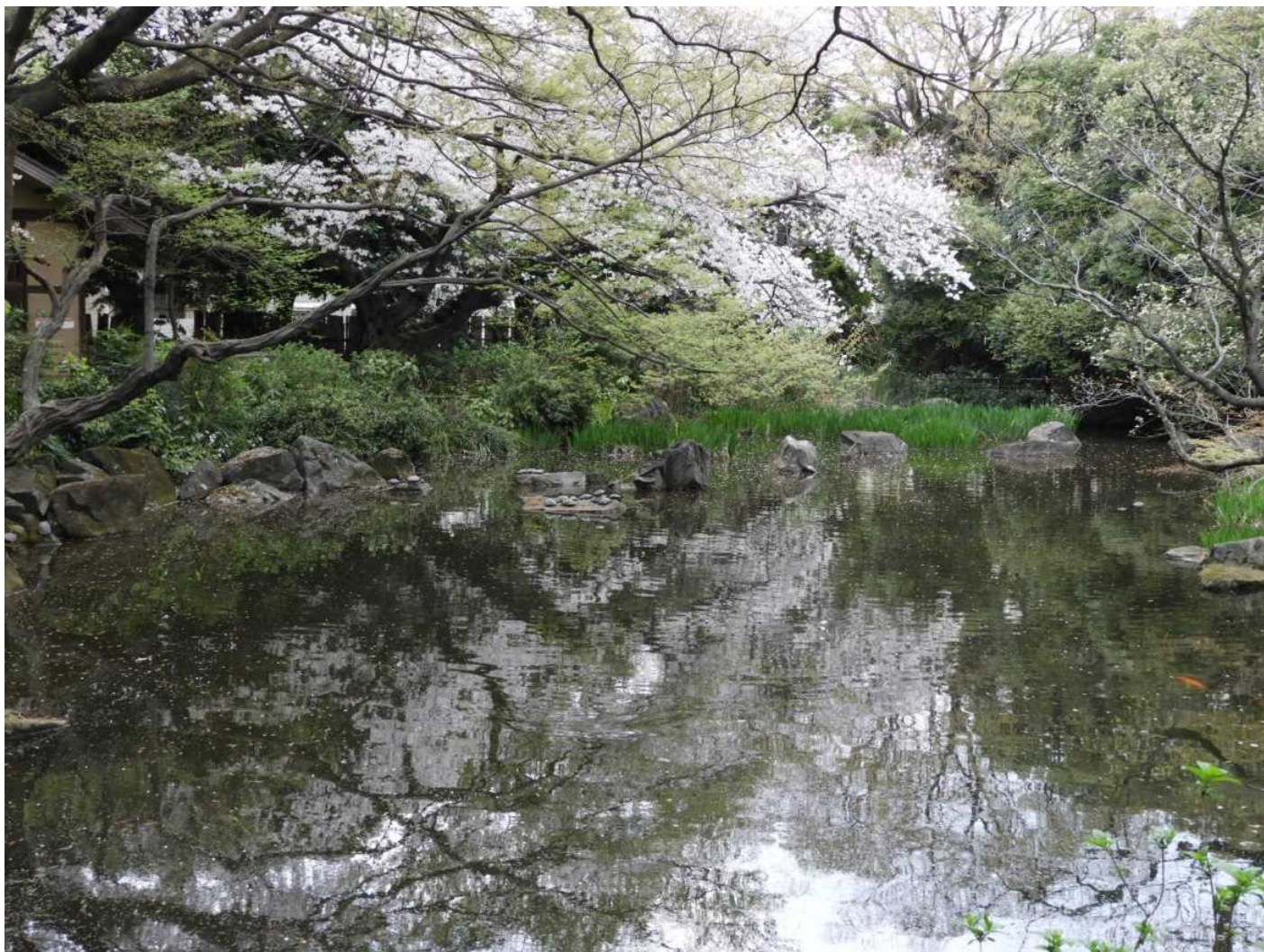


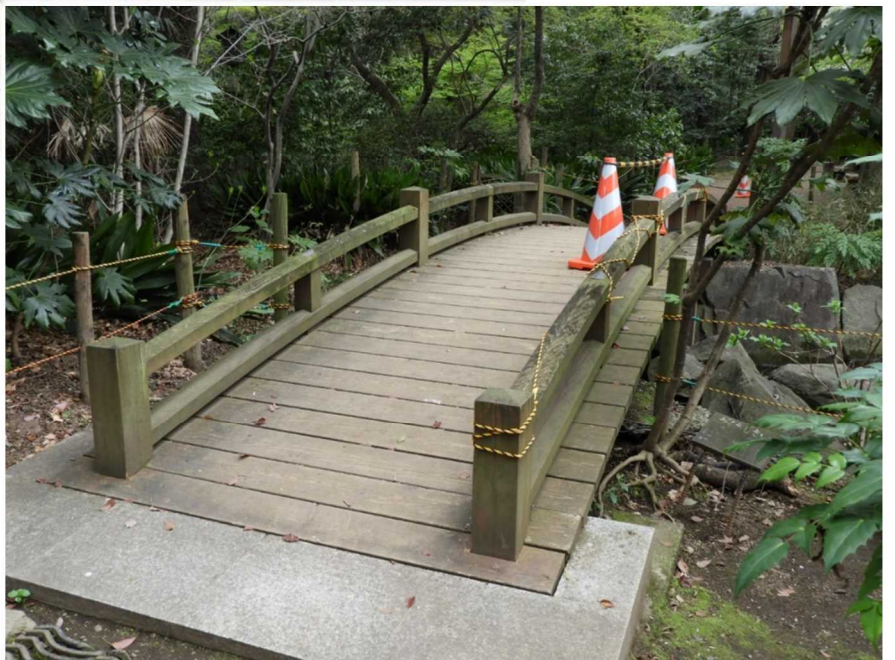
庭園として整備されたのは、明治の中頃で、垣内徳三郎という人の所有になってからでした。昭和13年には、株式会社精養軒が買収し、食堂やプールなどが作られ公開され続けてきましたが、昭和20年4月の空襲により焼失し、戦後、東京都によって再公開されるようになりました。

奥に憩いの場になる土壁の建物が見えます。

その手前の桜が池に素晴らしい姿を映しています。



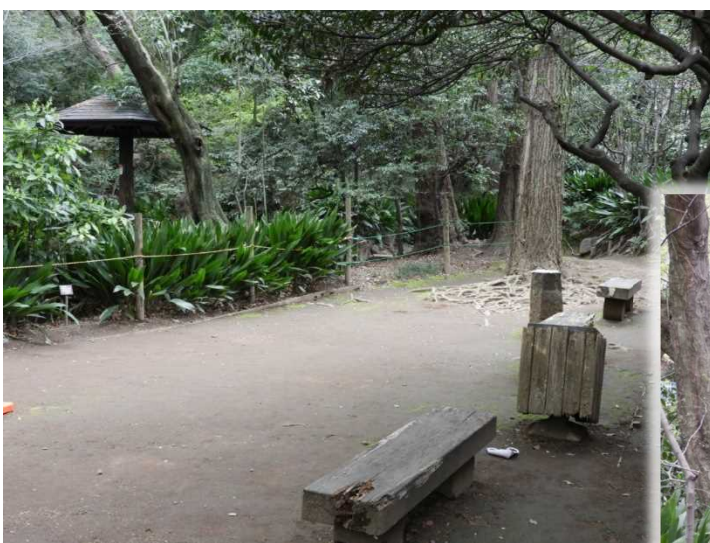




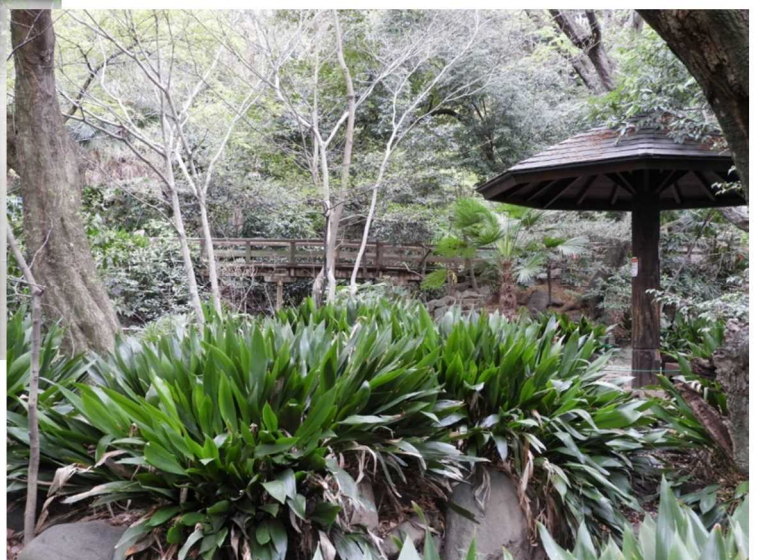
◇ 名主の滝公園 女滝へ

武蔵野台地の突端である王子近辺には滝が多く、かつて「王子七滝」と呼ばれる7つの滝がありました。このうち「名主の滝」だけが現存する唯一の滝となっています。

「名主の滝」は、都内でも有数の8メートルの落差を有する男滝（おだき）を中心とする女滝（めだき）・独鈷の滝（どっこのたき）・湧玉の滝（ゆうぎょくのたき）の4つの滝からなります。しかし、現在は、雄滝のみが水を落としています。

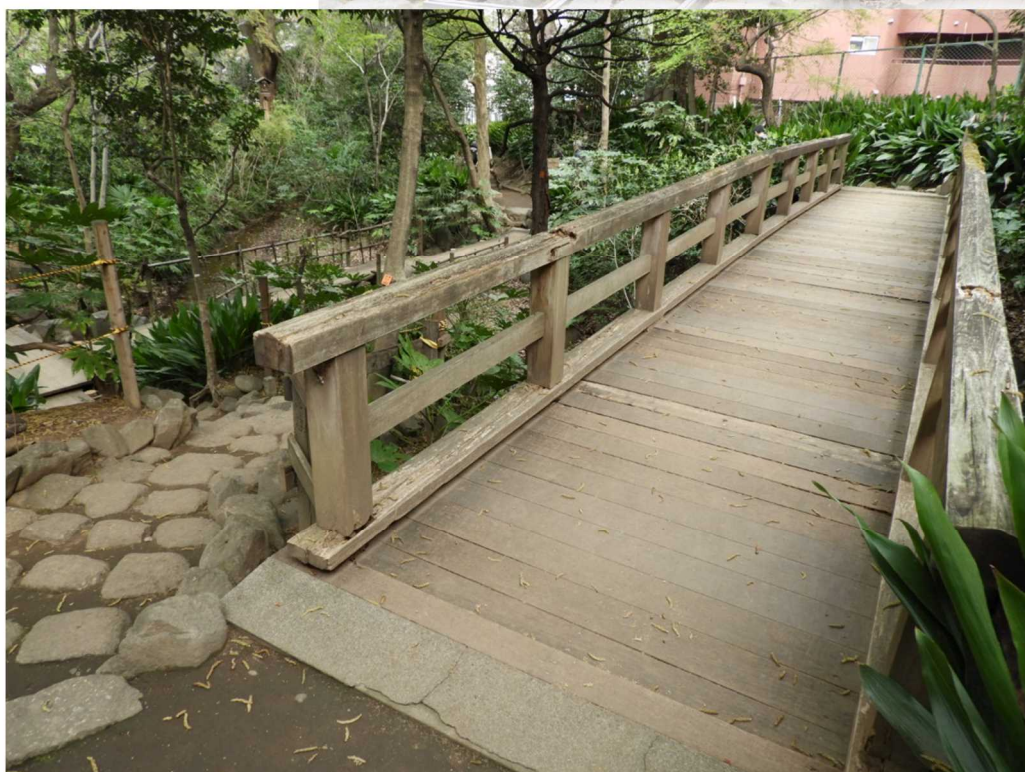


橋を渡ってさらに進みますと、ベンチがあり、その左手に東屋の屋根が見えてきました。



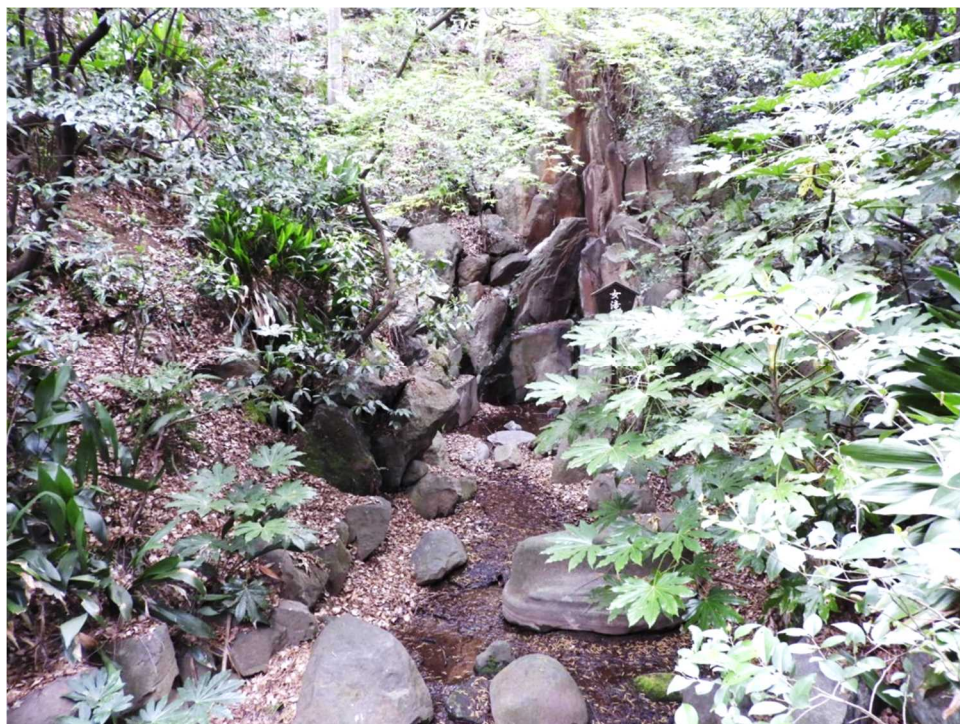


東屋の横の小径を進みますとつづら折れの八ツ橋に出ます。



八ツ橋の先を登った処に橋があり、橋の中央あたりから右手奥を見ますと女滝があります。

現在は、枯れ滝となっています。

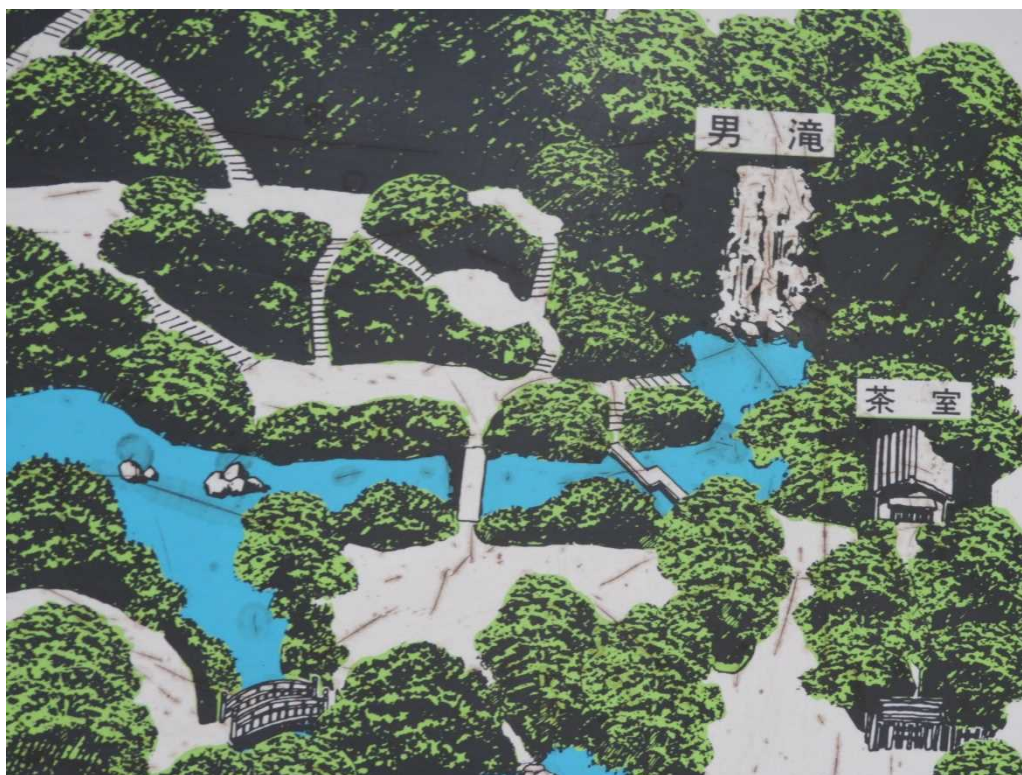


女滝から独鈷の滝（どっこのたき）方向に進みますと、先ほどとは別の東屋があります。



◇ 名主の滝公園 男滝へ

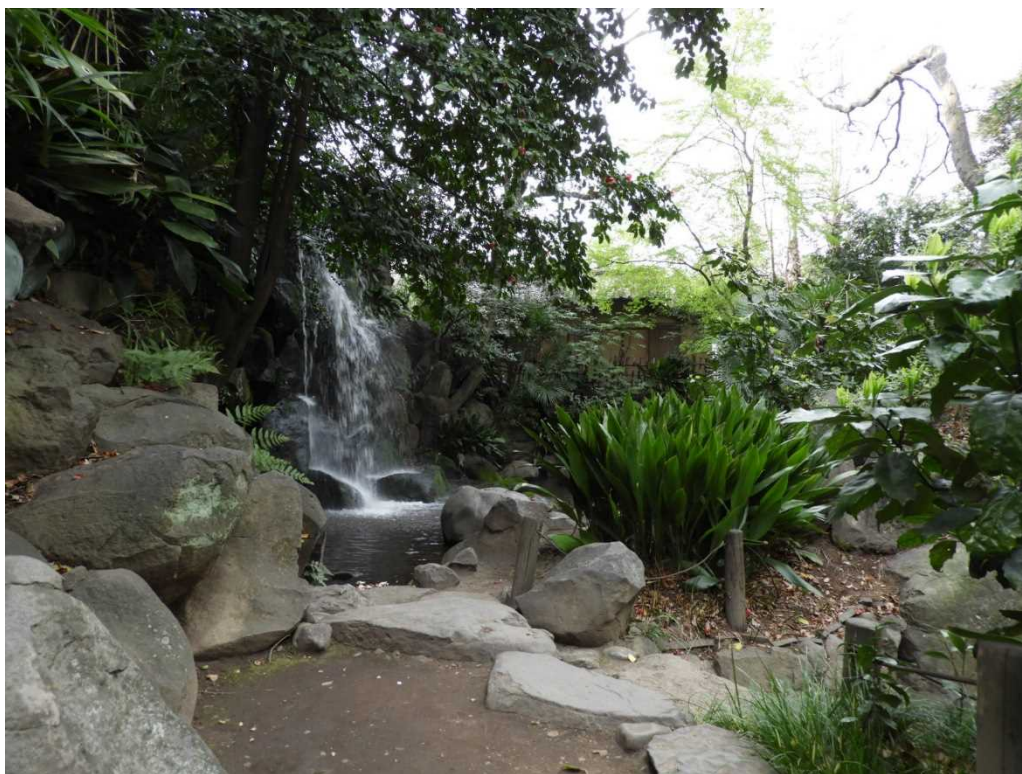
独鈷の滝の前を通り、さらに進みますと左手に、湧玉の滝（ゆうぎょくのたき）に行く橋が見えてきました。



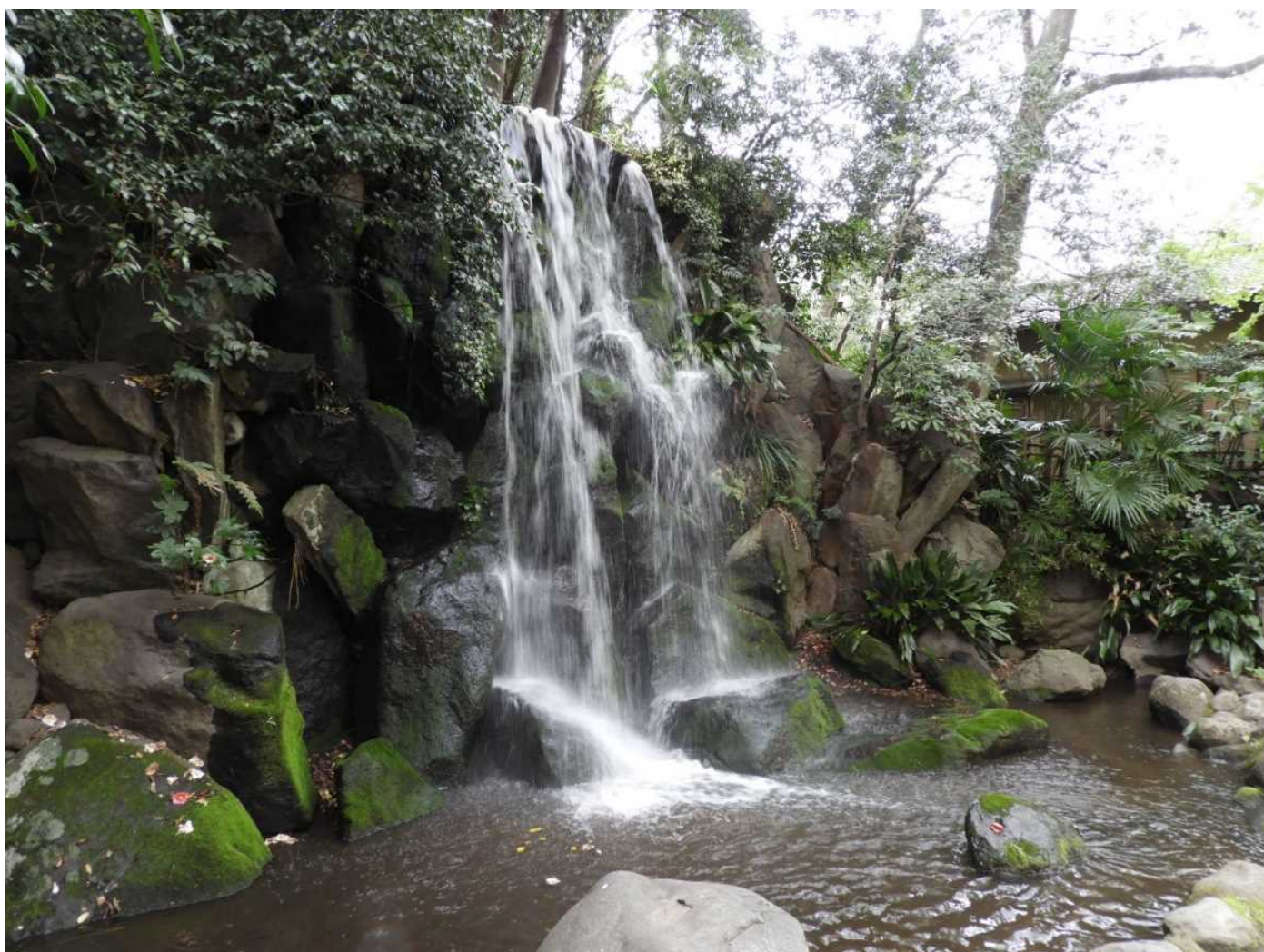


さらに小径を進みますと、小鳥の声と共に、水音が聞こえるようになってきました。

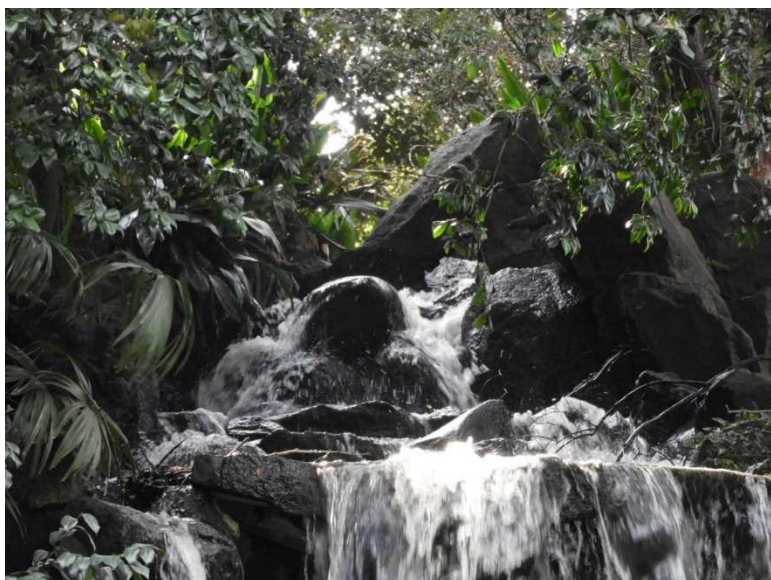




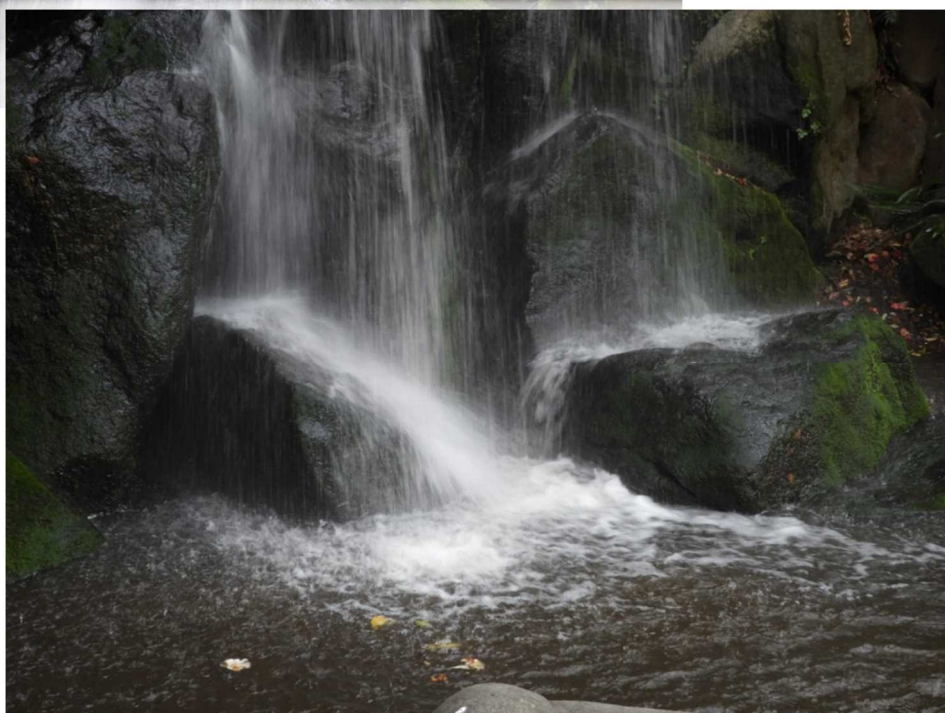
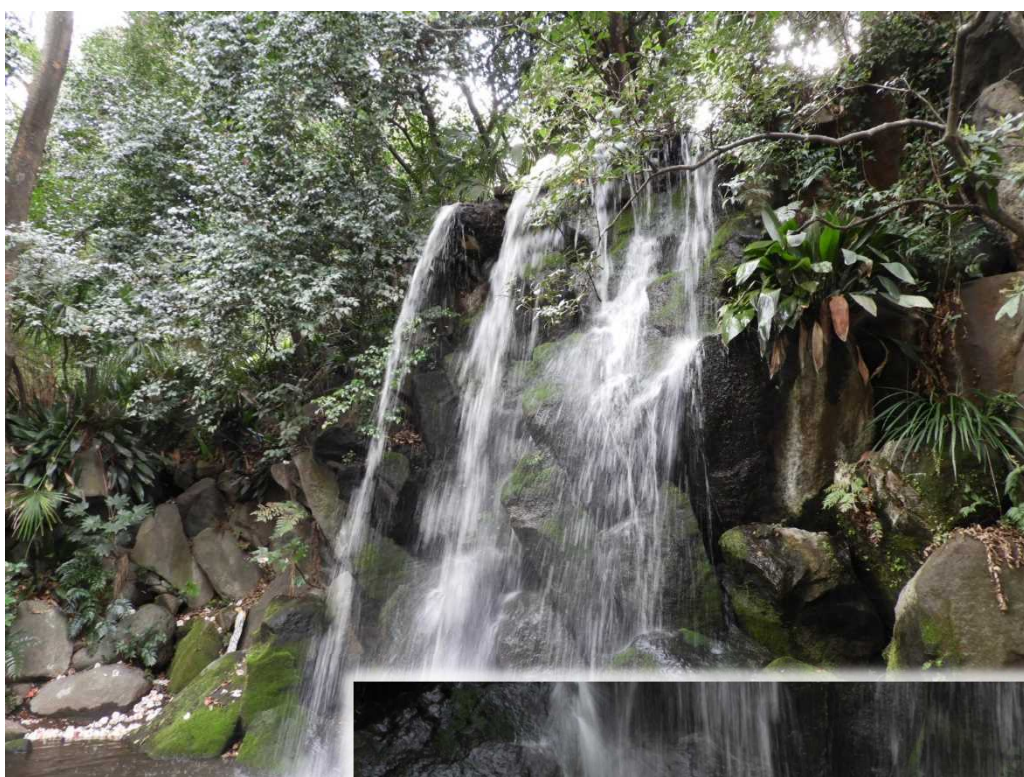
次第に滝の音が大きくなってきたら、眼前が開け、イオンが多いのか、空気も心なし、おいしく感じました。



都心に、8 mの落差を持つ滝があるだけでも驚きです。



滝の落口は、以外と狭く、その割には、豊富な水量です。





滝の下流に橋が架かっていました。

そこからの滝の眺めもまた格別です。



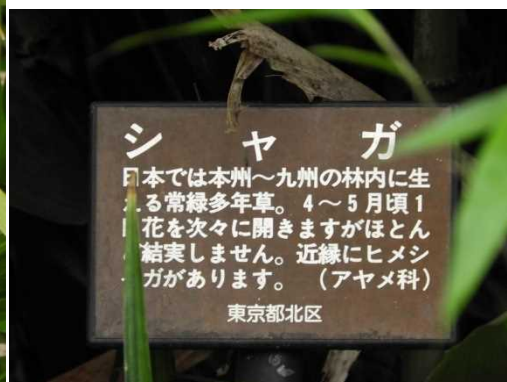
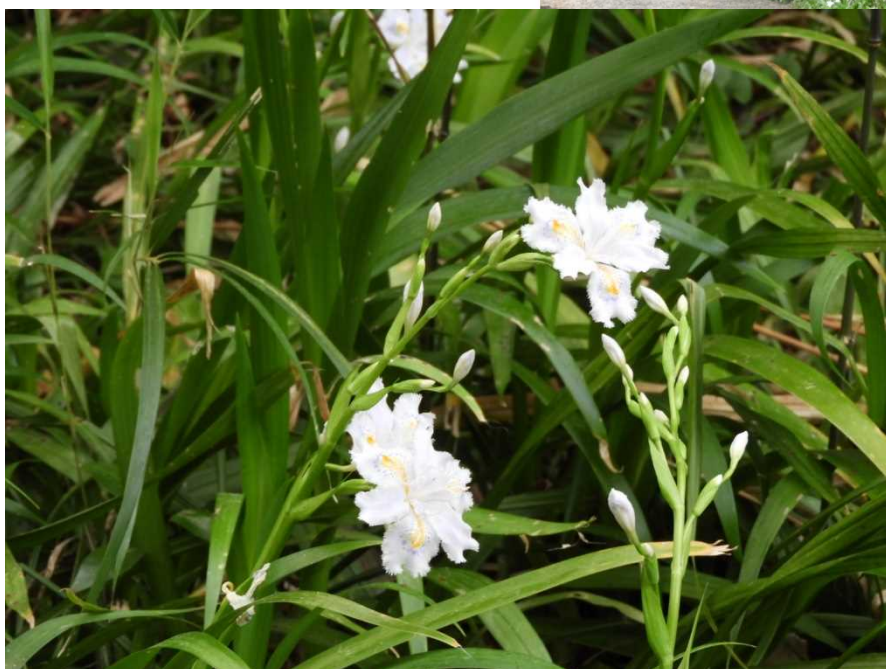
◇ 名主の滝公園 茶室

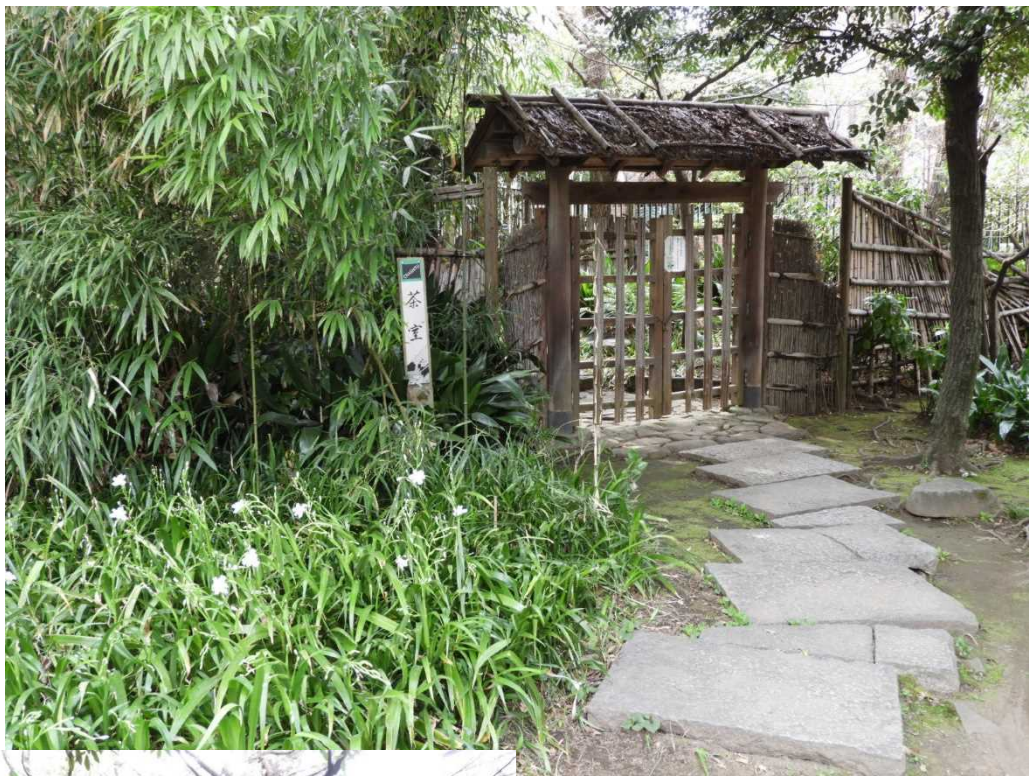
男滝を離れますと、広場に出ます。その一角が地クリッとなっていて、そこに茶室があります。

茶室は、広座敷8帖と3帖の台目の二席に待合（広縁）があり、二席の間には水屋が配されています。

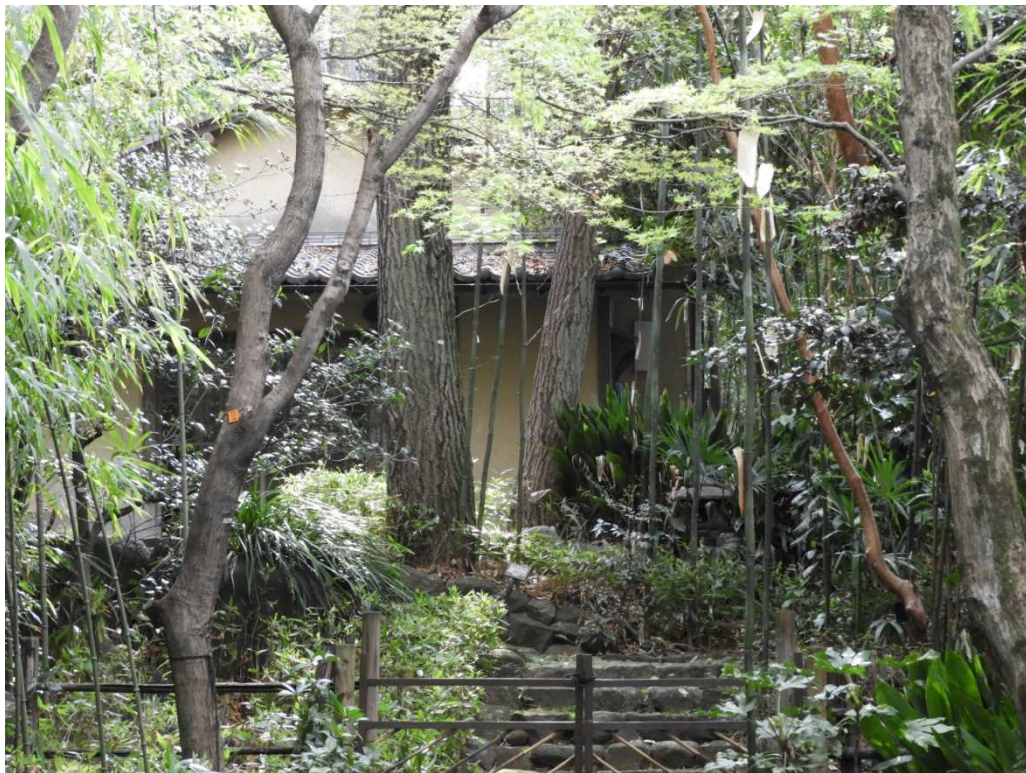


竹林前の陰に木戸があり、その前にはシャガが咲いていました。





木戸の格子の間から、中を
覗きますと、奥に茶室が見
えました。



茶室は、予約制で、誰もが
利用できます。

◇ 名主の滝公園 正門



公園の横の門から入りましたので、正門は最後に登場

広場の先には、名主の滝公園の正門がありました。





広場には、もう、八重の桜が
咲いていました。



正門を入った左手に、緑陰亭（りょくいんてい）と洗心亭（せんしんてい）という多目的な集会室として使用できます。

※上記施設の利用方法や申込方法などは、下記関連リンク「茶室と集会室のご案内」をご覧ください。

「名主の滝老人いこいの家」は、高齢者がレクリエーションや健康づくりなどで一日を楽しく過ごせる施設です。

◇ 三平坂

名主の滝公園正門を出て左に公園の淵沿いに道を進みますと上り坂になります。

急勾配の三平坂です。

この坂は、名主の滝公園の北端に沿って、台地に上る曲がりくねった坂道です。

江戸時代の絵図にあります「三平村」の名からとられたと考えられます。また、室町時代の古文書にあります十條郷の作人「三平」の名からとられたという説もあります。



そこから200m程行きますと、広い車道にでます。左折しますと、次の目的地であります王子神社やJR王寺駅に続きます。